

# 沙流川

保護者向け校長通信

NO. 4

発行日

令和5年 6月16日

## 「学校経営について」Part 3

前々号で、重点的に育成を目指す「子ども像」「資質能力」「道徳性」についてご説明いたしました。今回は、重点目標達成に向けた「4つのアプローチの視点」についてご説明します。

### アプローチの4つの視点

#### □ 「主体的・対話的で深い学び」の視点

教育活動の主体者は「子ども」であり、対話的な学び合いを通して、よりよい学びに深めていくということです。富小では、「富小スタイル」の授業の流れを統一し、どの学年、どの先生もこの流れを基本に授業を行っています。多少、教科や単元の特性に合わせて、流れを変更することはありますが、授業の流れを統一することで、子どもたちが、見通しを持って授業に挑むことができるようにしています。

#### □ 教科等横断的な視点

各教科で学んだことを関連する内容の他教科や総合的な学習の時間、特別な教科道徳さらに学校行事や学級活動、児童会活動などで活用していくということです。そして、それを実生活の中で活かしていくということです。例えば、道徳の授業で「優しき・思いやり」について学んだことを休み時間や清掃活動などの場面で活かしたり、下校途中に困っている人を見かけたら、声をかけたりすることができるように、学校生活の中で培っていくということです。

#### □ ICT活用の視点

一人一台端末（タブレット）の効果的な活用を中心とした授業づくりや家庭学習を中心に取り組んでいるところです。健康面やネットモラルの心配はありますが、そこを含めて家庭と連携を図って取り組まなければならない内容です。子どもたちが社会に出たときの状況は、これらを活用できることが前提となっている時代です。子どもたちの学習の「道具（アイテム）」として活用を図っていきます。

#### □ 教育資源活用の視点

ここでいう「教育資源」とは、「地域の人材」です。富小では、「社会地域教育資源活用リスト」を作成し、これらを活用した学習を実施することとなっております。さらに今年度は、「学習ボランティア」を募集し、教科の目的を達成するために、外部指導者や授業の手助けをお願いし、子どもの学びを保証していくこととなっております。